

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑪保護者との連携・協力と相談支援

- ◆ 保護者とは、保育・教育と子どもを通して関わっていくこと、保護者の子育てに自信を持ってもらえるよう、子どもを褒めて間接的に保護者を褒めると良いことを知った。また、子育てにおいて、何が良くて何が悪いのかは保護者が判断するものなので、支援員が非難や否定をしないこと、行動の決定も、保護者自身に任せるべきと学んだ。視線や言葉の選び方で相手からの印象が大きく変わることを実感したので、相手を思いやつて接し、相手に伝わるコミュニケーションを取り、安心感を持ってもらいたいと思う。
- ◆ 子どもの生活環境の変化、子育ての社会環境の変化から、子どもも親自体も人と関わる機会が少なくなっていることは、自分自身、1人の親であるので十分に理解できる。今回の科目は自分と照らし合わせ、非常に深く学べる時間となった。特に印象深く心に残ったこと、それは、「子育てを褒める」とは「保護者の生き方をほめているのと同じこと」ということである。親が自分に自信をなくすと子どもにも伝わると思う。寄り添い共感することを忘れずに過ごしたい。
- ◆ 保護者との対応においても専門性が大切であること、共感することの大切さ、対応スキルへの意識が大切であることを再確認した。単に保護者と話すだけでなく、口調や視線、角度等、相手の気持ちになって物事を考える姿勢を保つよう心がけねばと思った。演習では、非言語的コミュニケーションが大切であると感じるとともに、何気ない保育業務の中で、ながら対応になっている自分を反省した。
- ◆ この講義を聞き、改めて対応の難しさを感じた。なかなか保護者との関わりを深める機会もなく、お迎えのちょっとした時間に何かあればお伝えしたり、相談があったり、様子を聞かれたりするぐらいだが、その情報伝達も満足いかなければクレームになり得る怖さがある。情報伝達が十分に満たされるよう、さらに、1人で抱え込まぬよう、常日頃から他の先生方とのコミュニケーションを取る必要があり、時には、練習も必要だと感じた。
- ◆ 保護者との連携、協力を得るために、信頼関係を築くことがとても重要だと理解した。クラブでの子どもの様子を肯定的に伝え褒めることを忘れない、子どもを褒めるということは、保護者の生き方を褒めるに等しい、ということ学びました。今後の保護者対応として、自分の思いや考えばかりを先行させず、傾聴の姿勢で思いや願いをしっかり受け止め、謙虚な気持ちで接していかなければならないと強く感じました。